



第38期中間報告書
2010.3.1～2010.8.31

イオンディライトは、お客さまの「環境価値」を創造し続けます。

イオンディライト株式会社

証券コード：9787



「総合FMS事業」の創出により、新たなステージでの成長を目指します。



代表取締役社長

埜 唯見

上半期の状況

当第2四半期連結累計期間(2010年3月1日～2010年8月31日)は、アジア経済の成長や政府の経済対策等の効果もあり、日本経済の一部には持ち直しの動きが見られたものの、円高の進行や景気の失速懸念等から先行きが不透明な状況が続いております。このような経済環境の中、お客さまの施設維持管理コストの低減や投資抑制の意識は依然として強く、当社グループを取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況で推移いたしました。

当社グループの取り組み

こうした中、当社グループでは新たなステージでの成長を目指し、「総合ファシリティマネジメントサービス(総合FMS)」という新しい事業を創出すべく、同じ理念を共有するチェルト株式会社との合併に向け取り組みを推進いたしました。この一環として、合併に先立ち、FMS事業の拡大を目指して「総合FMS事業推進室」を設置いたしました。

当第2四半期連結累計期間の営業拡大に向けた取り組みの結果、国際空港や国際展示場、グローバル企業の研究施設、全国展開するアミューズメント施設等、様々な用途の施設で幅広いお客さまとのお取引を開始いたしました。

また、厳しい経営環境の中でも、収益性の改善に向けた取り組みに一層注力してまいりました。清掃事業では、一昨年に取り組みを開始した当社清掃モデルの水平展開を推進し、継続的に成果を挙げております。こうした好事例を施設管理事業でも展開すべく、まずは中・小型物件を巡回方式で管理する「巡回センター」の働き方改革に着手し、ワークスケジュールを活用した業務の見える化等により効率化を図りました。

上半期の経営成績

これらの取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は688億8千5百万円（対前年同期比94.5%）となりましたが、営業利益は50億2千1百万円（同102.9%）、経常利益は50億5千3百万円（同104.0%）と共に前年同期を上回ることができました。また、チェルト株式会社との合併に伴い発生した費用1億5千5百万円等を含む合計1億6千6百万円を特別損失として計上し、この特別損失に税金等を加味した結果、当第2四半期純利益は、過去最高の27億7千万円（同106.9%）となりました。

事業の種類別セグメントの状況は、以下のとおりです。

施設管理事業については、売上高206億6千9百万円（対前年同期比97.4%）、警備保安事業では162億2千5百万円（同93.6%）、清掃事業では212億6千万円（同92.2%）、建設施工事業では81億3千6百万円（同94.8%）となり、ビル管理部門全体では、売上高662億9千2百万円（対前年同期比94.4%）となりました。

また、その他部門については、売上高25億9千3百万円（対前年同期比98.1%）となりました。

なお、当中間配当は、当初予想どおり1株あたり17円の配当を実施する一方、期末配当予想につきましては、チェルト株式会社との合併記念配当（5円）を含め、1株あたり22円（年間計1株あたり39円）を予想しております。

世界的な環境意識の高まりをビジネス拡大の機会と捉え、当社グループでは、一昨年から環境負荷低減ビジネスへの取り組みを強化してまいりました。省エネ法改正に伴い、企業・施設のエネルギー使用量の一元管理と、定期報告書作成を目的に拡販しているA d-T E M S（イオンディライト・トータル・エネルギー・マネジメント・サービス）については、8月末現在で、11社・1,133事業所に導入させていただきました。また、当初提案した施設で、具体的な省エネの成果が現れ始めました。こうした実績とノウハウを基に環境ソリューション営業を推進したことにより、当第2四半期連結累計期間の半期で前年通期と同程度の成果を挙げることができました。

建設施工事業では、お客さまの修繕コストの抑制や設備投資の先送りが続く中、施設の安全や安心、快適、あるいは資産価値の維持向上といった観点から、お客さまの声を今一度お聞きし、お客さまの目線で提案を行う「御用聞き運動」を全センターで推進いたしました。第3四半期以降もこのような取り組みを一層強化してまいります。

海外では、中国北京で2010年5月に開業した「ジャスコ朝北大悦城店」に続き、当社子会社である永旺永楽（北京）物業管理有限公司（イオンディライト北京）の分公司を華南地域に設立し広東省佛山市の「イオン順徳SC（永旺順徳購物中心）」でも7月より新たにサービスの提供を開始いたしました。これにより、中国における事業展開の基盤強化を図ることができました。

2010年度第2四半期連結業績

■売上高	688億円
■営業利益	50億円
■経常利益	50億円
■四半期純利益	27億円

連結財務諸表(要約)

Consolidated Financial Sheets

(百万円)

連結貸借対照表

	当第2四半期連結会計期間末 2010年8月31日	前期末 2010年2月28日
(資産の部)		
I.流動資産	32,488	30,026
II.固定資産	18,364	18,644
有形固定資産	2,705	2,741
無形固定資産	11,523	11,924
投資その他の資産	4,135	3,977
資産合計	50,852	48,670
(負債の部)		
I.流動負債	16,349	16,281
II.固定負債	837	1,024
負債合計	17,186	17,306
(純資産の部)		
I.株主資本		
資本金	3,238	3,238
資本準備金	2,964	2,964
利益剰余金	27,542	25,366
自己株式	△461	△461
株主資本合計	33,283	31,107
II.評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	226	149
為替換算調整勘定	0	△3
評価・換算差額等合計	226	145
III.新株予約権	156	110
純資産合計	33,666	31,364
負債純資産合計	50,852	48,670

(百万円)

連結損益計算書

	当第2四半期連結累計期間 2010年3月1日～ 2010年8月31日	前第2四半期連結累計期間 2009年3月1日～ 2009年8月31日
I.売上高	68,885	72,856
II.売上原価	58,291	62,188
売上総利益	10,593	10,667
III.販売費及び一般管理費	5,572	5,785
営業利益	5,021	4,882
IV.営業外収益	110	53
V.営業外費用	78	79
経常利益	5,053	4,856
VI.特別利益	3	70
VII.特別損失	166	144
税金等調整前四半期純利益	4,889	4,782
法人税、住民税及び事業税	2,068	1,916
法人税等調整額	51	224
少数株主利益	—	50
四半期純利益	2,770	2,591

(百万円)

連結キャッシュ・フロー計算書

	当第2四半期連結累計期間 2010年3月1日～ 2010年8月31日	前第2四半期連結累計期間 2009年3月1日～ 2009年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,076	2,275
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,479	81
財務活動によるキャッシュ・フロー	△637	△3,708
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,038	△1,348
現金及び現金同等物の期首残高	7,873	6,970
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,835	5,621

セグメント別情報

Segment Information

売上高

当第2四半期連結累計期間
2010年3月1日～
2010年8月31日

前中間期
2009年3月1日～
2009年8月31日

前年同期比
(%)

増減額

ビル管理部門

(百万円)

施設管理事業	20,669	21,227	97.4	△ 558
警備保安事業	16,225	17,328	93.6	△ 1,103
清掃事業	21,206	23,071	92.2	△ 1,865
建設施工事業	8,136	8,585	94.8	△ 449

その他部門

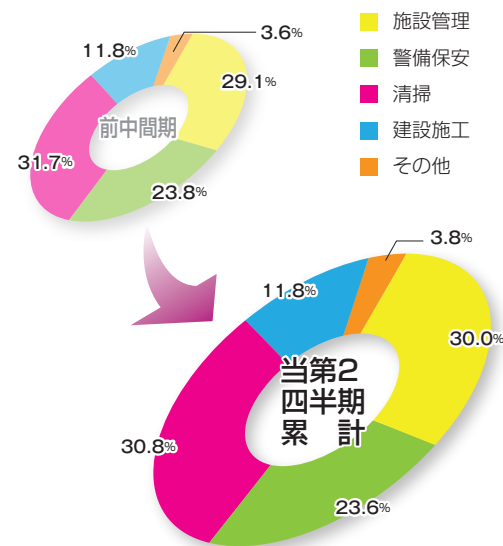
その他	2,593	2,642	98.1	△ 49
-----	-------	-------	------	------

売上高合計

68,885	72,856	94.5	△ 3,971
--------	--------	------	---------

※「その他部門」は、ビル管理部門その他事業と、その他営業収入を合算したものです。

売上高構成比の推移



トピックス

Topics

テレビCM「任せて、伸ばす。」篇を放映

当社は、新たに始めた「総合FMS事業」について広く皆さまに知っていただくために、テレビCM「任せて、伸ばす。」篇を、テレビ朝日系24局ネットの報道番組「サンデー・フロントライン」で放映しています。

お客さまのビジネスをイメージ化した一本の樹が、総合FMSの力を用いて成長していく姿を、アニメーションで表現した内容です。ぜひ一度、ご覧いただけますようお願い申し上げます。



「任せて、伸ばす。」 総合FMS事業 ワンストップサービスで企業体質強化と コスト削減を提供

2010年9月1日、イオンディライト株式会社とチェルト株式会社が合併し、新生イオンディライト株式会社が誕生しました。多方面にわたる事業で培ったノウハウで、建物で働く人やそこで過ごす人々のことまで考えた「総合FMS（ファシリティマネジメントサービス）事業」を展開してまいります。

今回は、総合FMS事業の一角を担う、バックオフィスサポート「資材関連事業」「自動販売機事業」についてご紹介いたします。

バックオフィスサポート「資材関連事業」「自動販売機事業」

総合FMS事業の展開のさきがけとして、当社はこの9月より新たに、旧チェルト株式会社の主力事業であった事務用品や包装資材など企業向け資材供給と、自動販売機の管理・運営を中心に「バックオフィスサポート事業」を展開してまいります。

「資材関連事業」では、オフィス、店舗などで使われる資材の購買プロセスの効率化、最適なロジスティクスによりコストの低減と業務の効率化に貢献いたします。

また、グリーン購入ネットワーク基準に即した環境対応アイテムへの切り替えも手助けいたします。「自動販売機事業」では、売上効率の高い飲料混合機を中心に観葉植物、ベンチをコーディネートなど、リフレッシュメントスペースの提案によって収益性の向上と利用者の満足度向上をご提供いたします。

総合FMS事業のさらなる推進のため、今後は、受託業務のウィングを広げ、メニューを拡充してまいります。



■資材関連事業

- ・ポリ袋、包装紙などレジ周辺資材の供給
- ・販促資材、鶏卵バックなど売場周辺資材の供給
- ・洗剤、白衣など後方部門周辺資材の供給
- ・文具事務用品、OA関連資材の供給
- ・梱包資材など荷受・配送関連資材の供給
- ・各種ユニフォームのレンタル
- ・事業所向け購買サイト「ちえるねっと」の運営



■自動販売機事業

- ・飲料自動販売機の設置
- ・食品自動販売機の設置
- ・玩具自動販売機の設置
- ・休憩スペース、喫煙スペースなどのご提案

株主メモ

Shareholder's Memo

事業年度	3月1日から翌年2月末日
基準日	2月末日 (そのほか必要がある場合はあらかじめ公告いたします。)
定時株主総会	5月
単元株式数	100株
権利確定日	期末配当 毎年2月末日 中間配当 毎年8月31日
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話 お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払い、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取以外の株式売買はできません。電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は、至急ご連絡ください。

(専用ホームページの「お手続き内容」で一部届出用紙が出力できます。)
<http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>

ホームページ上で公告・各種資料がダウンロードできます。

<http://www.aeondelight.co.jp>

株式の状況 (2010年8月31日現在)

Stock Information

発行可能株式総数	8,640万株
発行済株式総数	4,140万株
株主数	4,198名

大株主の状況

所有比率は発行済株式に対する比率です。

順位	株主名	所有株式数(株)	所有比率
1	株式会社 マイカル	23,261,800	56.2%
2	ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	1,968,642	4.8%
3	イオンディライト株式会社	1,729,838	4.2%
4	日本 マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	841,400	2.0%
5	日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	731,400	1.8%
6	ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	657,958	1.6%
7	イオンディライト従業員持株会	644,100	1.6%
8	イオン株式会社	560,800	1.4%
9	ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	507,000	1.2%
10	イオンディライト取引先持株会	396,000	1.0%

